

停電時も治療など安定継続

設備更新を機にLPガスでBCP対策

医療法人朝霧会 じんの内医院 (佐賀県佐賀市)

発電機はディーゼルからLPガスに

医療法人朝霧会が運営する「じんの内医院」は、人工透析治療を行っており、**停電時にも入院患者の治療や食事の提供を安定的に継続していくBCP (事業継続計画) 対策の一環として、院内の設備を更新し、新たにLPガス災害バルクと非常用発電機などを導入した。**

医院の周辺では、カササギが巣作りで集めた針金やハンガーが電線と接触して停電が頻発し、他の病院と比べて発電機の稼働率が高かった。以前はディーゼル発電機を使用していたが、作動音や臭いで近隣住民から苦情が出ていた。設備更新を機にLPガス発電機を導入、災害時の対応を考慮し災害バルクを採用した。

医院の向かいにある朝霧会運営の有料老人ホーム「煌 (きらめき) 新郷サービス付き高齢者向け住宅」にも、併せて災害バルク、非常用発電機、投光器が設置された。

ユーザーの声

じんの内医院
事務長

陣内 聡 さん

災害時に入院患者さんの安全を守る施設に

当医院は災害時の避難所に指定されており、LPガス災害バルクと非常用発電機は停電対応だけでなく、地域防災にも役立てられます。今後、地域住民を招いて毎年開くもちつき大会で、防災訓練を兼ねて災害バルクのLPガスを利用する予定です。**災害時には入院患者さんの安全を守り、避難所として地域貢献**できればと思います。

設置機器

- ・災害バルク貯槽 (1t×2基)
- ・非常用LPガス発電機 (75kVA×3台)
- ・LED投光器×3台



朝霧会「じんの内医院」



災害バルク貯槽と非常用発電機